

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

390号

2023年9月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合  
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

## 韓米日3国首脳が残したもの。軍拡競争の深化と相互信頼の放棄

8月18日、米国キャンプデービッドで初の韓米日3ヶ国首脳会議が開かれた。そして首脳会談で採択した「キャンプデービッド精神」「キャンプデービッド原則」「3者協議に関する公約」を発表した。内容は朝鮮・ロシア・中国を域内外の共通の脅威とし、これに対抗するための3ヶ国の軍事協力を強化するとともに、有事の際に軍事協力のための迅速な協議をする枠組みに合意した。

その中で①朝鮮が発射したミサイル情報を即時共有するシステムの年内稼働、②朝鮮の核・ミサイル体制の高度化に対応する弾道ミサイル防衛協力の推進、③3ヶ国による共同訓練を定例化することにした。明らかに韓米日軍事同盟の構築に向けた会談であった。

米国の新冷戦思考に基づき、韓米日3ヶ国首脳は軍事協力の決定的な強化を宣言した。朝鮮とロシア、中国は強く反発している。軍事緊張が激化し、新たな際限のない軍拡競争が始まる。停戦協定締結70年を迎え、平和協定の実現を願う朝鮮半島と東アジアの人々に戦争の危機をもたらす韓米日軍事同盟の構築に徹底して反対しなければならない。

国際政治学者のムン・ジョンイン延世大学名誉教授は、ハンギョレ新聞のインタビューで「尹錫悦大統領が保守支持層の好む外交成果を一日も早く出さなければならないという焦りに囚われていたようだ」と指摘したうえで、今回の3ヶ国合意について次のように述べている。「米国の場合①冷戦時代への回帰を強く印象付け、過去志向的を試み、望んでいたものをすべて手に入れた。②米国外交の70年の夢である韓米日3ヶ国協力の実現で、来年に大統領選挙を控えたバイデン大統領にとって大きな政治的好材料となった」。

「日本は何も失わず、多くを手に入れたといえる。①ミサイル警戒情報のリアルタイムでの共有の合意は、日本にとって大きな成果。②日本は韓国という緩衝地帯を確保した。③南シナ海、台湾、海路安全問題で、日本は韓国から軍事的支援を得られる可能性が高まった。④尹大統領は岸田首相に対して韓日関係のセンシティブ(神経質)な懸案である独島、東海の表記、強制動員、福島原発汚染水の海洋放出などについて問題提起をしなかった。低い支持率に悩む岸田政権には損はなく、得ばかりだ」。

「韓国の場合、①韓国は保守と革新の評価が完全に分かれている。世論の二極化が進んだ。尹錫悦政権にとっては北朝鮮(※正しくは朝鮮)政策の核心目標に掲げてきた北朝鮮(※正し



▲韓米日軍事同盟に反対する韓国民衆

くは朝鮮)の非核化、拉致被害者、抑留者、未送還国軍捕虜問題の解決、自由・平和の統一朝鮮半島への支持などを「キャンプデービッドの精神」に明示したことが成果と言えらるだろう」。

台湾問題は韓米日共に台湾は中国の一部と認識している、中国の台湾への軍事行動があったとすれば、それは内戦であって直ちに米日が参戦することはあり得ない。こんな状況にもかかわらず韓国が中国を刺激する文書に署名する外交的失策を繰り返している。

「朝鮮半島の非核化」から「北朝鮮(※正しくは朝鮮)の非核化」と明記する点も注目される。朝鮮半島での大規模軍事訓練は南北の緊張をより高めるばかりで、平和を求める朝鮮半島と世界の人々の願いを無視するものだと言わざるを得ない。今回の3ヶ国首脳会談を見て、あらためて平和協定の締結と国連軍司令部の解体こそ、今求められる最高の外交的目的ではないかと思う。(鐵)

## 韓国国内の民衆と連帯して、 尹錫悦政権退陣闘争にまい進しよう！

### 光復節78周年関西地域集会

光復78周年を迎え、韓統連関西協議会主催で「汚染水海洋投棄阻止！尹錫悦政権退陣！光復節78周年記念 在日韓国人関西地域集会」が8月13日(日)、尼崎中小企業センター(兵庫県尼崎市)で開かれた。

集会では、崔孝行(チェ・ヒョハム)韓統連兵庫本部代表委員の主催者挨拶、映像資料の上映後、朝鮮戦争停戦協定70年を迎えて実施された「DMZ国際平和大行進」に参加した崔誠一(チェ・ソンイル)韓統連大阪本部事務局長から参加報告と、7月22日にソウルで開かれた「停戦70年朝鮮半島平和大会」に参加した韓統連母国訪問団の活動報告を、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員が行い、両報告を通じ70年間継続している南北の軍事緊張の現状と、平和大会に参加した韓国民衆と日本の連帯勢力とともに、一日も早い平和協定の締結を訴えたなどの成果を共有した。



#### ▲情勢講演を行う金昌五副代表委員

続いて、金昌五(キム・チャンオ)韓統連大阪本部副代表委員が情勢講演を行った。金副代表は初めに、日本政府が強行しようとしている福島原発事故汚染水海洋投棄問題について「廃炉の目処が立たない福島第1原発では、最終的にどれくらいの放射能汚染水が出ることになるのかも分かっていない。放出した放射性物質は回収できない。何世紀にもわたって環境を汚染し続けるものを海に捨ててはならない」と語った。

続いて、国内情勢について金副代表は「尹錫悦政権発足以降、検察権力の強化、金持ち優遇の政策、民主労総をはじめ進歩勢力への弾圧を強化している」と指摘しながら、「国内では尹錫悦政権退陣の声が上がっている。私たちも尹錫悦政権退陣闘争にまい進しよう」と訴えた。

講演後は質疑応答と決議文の採択が行われ、最

後に尹元寿(ユン・ウォンス)韓統連兵庫本部常任顧問が閉会挨拶を行った。

## 朝鮮半島の平和協定締結は 朝鮮半島、東アジアの平和には不可欠 第28回統一マダン生野プレ企画

9月17日(日)に開かれる第28回統一マダン生野のプレ企画として、第28回統一マダン生野実行委員会の主催で「朝鮮半島とアジアの平和を考えるつどい」が8月27日(日)、クレオ大阪中央セミナーホール(大阪市天王寺区)で開かれた。

つどいでは、金昌範(キム・チャンボム)実行委員長が主催者挨拶とプレゼンを通じ、朝鮮戦争の始まりから停戦協定締結に至る経過を解説しながら、平和協定に変える意味について「朝鮮戦争を完全に終わらせるための公式な約束」と語った。

次に、金隆司韓統連大阪本部代表委員から7月22日にソウルで開かれた「停戦70年朝鮮半島平和大会」の報告と、共に参加した中山茂さんから感想が述べられ、活動の成果を共有した。



#### ▲朝鮮半島の平和について講演する康宗憲代表

続いて、康宗憲(カン・ジョンホン)韓国問題研究所代表が「朝鮮半島の戦争と平和」をテーマに講演を行った。康宗憲氏は講演を通じ、歴代の米国政府に共通する朝鮮への敵視政策について、▲韓国軍の作戦指揮権を掌握し、朝鮮の軍事制圧を目的とする韓米合同軍事演習の定例化、▲朝鮮の体制崩壊・政権交代を圧迫するための手段としての経済制裁などを指摘し「朝鮮の核兵器、弾道ミサイル開発は朝米敵対関係の産物」と語った。

そして「朝鮮戦争の平和協定を結ばなければ朝鮮半島の平和、東アジアの平和は実現しない」と述べ、「韓国及び日本における平和運動が重要だ」と主張した。

講演後は質疑応答と金昌範実行委員長から第28回統一マダン生野の紹介が行われた。

## 韓青関西地協 夏期講習会活動報告

韓青大阪本部、兵庫本部、京都本部からなる韓青関西地協は、8月4日から5日の1泊2日の夏期講習会を香川県高松市で開催しました。

関西地協としては、2019年の奈良県明日香村から4年ぶりの開催（去年は全国開催）であり、運営側も気合が入りました。

全期間通じて天候にも恵まれ、夏の香川を満喫。深夜フェリーで神戸港を出発し、早朝に高松港に到着してご当地名物の讃岐うどんを食べました。その後、またフェリーで片道20分ほどの離島「女木島」へと移動。朝の海水浴で大いに盛り上がりました。その後、近くの食堂で昼食をとると今度は「鬼の洞窟」へ移動。大正時代にある学校教師によって発見された洞窟が、桃太郎伝説の鬼が島をほうふつとさせる(?)ということで、洞窟内に鬼のモニュメントがたくさん並ぶ、ちょっとしたテーマパークのような雰囲気を楽しむことができました。その後は展望台に上り、瀬戸内海に囲まれた島全体を一望して、雄大な景色に一同感動もひとしおでした。



▲海水浴で楽しむ参加者

再びフェリーで女木島を後にして高松市内の宿舎へと移動。少し仮眠をとって体力を回復し、今度は参加者全員で夕食を作りました。宿舎からすぐ近くのスーパー（香川県にしかないご当地スーパー）で買い出しを行い、手分けして夏野菜カレーを作りました。みんなで作ったカレーの味は特別な思い出になりました。

各自銭湯で入浴を済ませ、夜のメインイベント学習会を行いました。講師を担当した尹鏞昊（ユ

## 韓青大阪府本部委員長 趙暎和(チョ・ヨンファ)

ン・ヨンホ) 韓青兵庫本部委員長の講演と参加者全員の討論で、日頃の韓青活動に対する思いを垣間見ることができる貴重な時間となりました。

そして1日目最後の企画は花火！場所の関係上打ち上げ花火はかないませんでしたが、大いに夏の夜を満喫しました。



▲参加者全員で記念写真

2日目は早い時間に宿舎を後にして、すぐ近くのビーチでBBQをしました。準備、片付け等は地元の業者がすべて行ってくくださり、こちらは肉やお酒の買い出しだけでとても助かりました。

その後、昼過ぎには高松港へと移動、フェリーで高松を後にしました。ちなみに帰りのフェリーは内装をリニューアルしたおしゃれな空間で、高級感あふれるカフェもありました。

神戸港に到着後、各々解散しました。

今回参加した7名の中で3名は各本部から20代前半の若手が参加、うち1人は新規参加という動員面でも大きな成果が獲得できました。今後の韓青の未来への足掛かりとなる夏期講習になったのではないかと思います。

最後になりますが、今回の夏期講習会開催は日頃、私たち韓青の活動を支持・支援してくださる皆様のおかげで開催することができたことを、あらためて御礼申し上げます。대단히 감사합니다 (本当に感謝します)。

## 【夏期講習会感想文】 韓青活動を通してもっと学び、経験していきたい

## 韓青大阪本部 姜美花(カン・ミファ)

私は小学校から高校まで民族学校に通い、昔から生野に住んでいます。今までたった23年ほどですが、生きてきた中で自分の国籍に関して、いじめを受けたことや、迫害されたことはありませんでした。

民族学校へ通っていたので授業内で国の歴史を学び、そこでどのような差別を受けてきたかを知識として知ることはありましたが、当時はそれも現実味がなく、あまり歴史の授業にも関心はありませんでした。



▲夏期講習会に参加した姜美花さん

(左側前から2人目)

私は日本の大学に入学し、そこではいろいろな国籍の方や境遇の方たちと出会えました。その様々な考えを持つ人たちと出会うことで、人それぞれ境遇は違うものだし、思いや経験してきたことも違うため、物事への気持ちの入れ具合の違いや対立があって当たり前のことだと思いました。

ですが、そこで諦めて放置するのではなく、境遇や経験が違うからこそ、自分だけでは理解できない思いや考えつかないような意見があり、お互いが話し合い理解することで、新たな知識として経験を一つ積み重ねることができるのだと知り、私が知っていること以外のことも知識として、経験として知りたいと思うようになりました。

人は関心がなければ知識は増えないし、知識が増えなければ理解できなくて、より関心が薄れていくものだと私は思います。そこで、私はまず今年の5月頃、韓青に誘われたタイミングで自分の国の歴史や、今現在もずっと運動を行っていることについて、もっと学びたいと思い韓青に入ることを決めました。

もともと両親が韓青で活動をしていたこともあり、サマーキャンプの存在は知っていましたし、さらにいろいろな人と出会い、自分の知らない話をもっとできるならと思います、今回サマーキャンプに参加しました。



▲韓青の仲間とともに記念写真

そして、サマーキャンプで出会った人とお話をすることで、差別がいかに関心のすぐ近くにあるもので、自分は今までは経験してこなかったけれど、実際に今も確実に自分の国籍で差別を受け迫害されている人たちがいるという事実がすごく悲しいもので、知らないことがこんなにも辛い事だと、自分が今までどれだけ世間知らずで幸せな環境で育ち生きてきたのかをあらためて認識させられました。

韓青で活動をしている人の中には、差別を受けたから「二度と同じ思いをさせない」という思いで活動を続けていらっしゃる方や、私と似た境遇の方、他にもそれぞれの思い、考えを持った方々がいらっしゃるかと思います。そんないろいろな考えを持つ方々とお話をし、韓青活動を続けることで、これからも私は何度も辛い気持ちになりショックを受ける経験をしたいと思います、決して目を逸らし逃げてはいけないということを今回のサマーキャンプであらためて理解し、決意しました。

今回は差別の話が重点的になってしまいましたが、差別だけではなく、他にもたくさんある問題点についても今後、韓青活動を通してもっと学び、経験していきたいと強く思いました。

## 日本製鉄は被害者の「人権回復」のための話し合いに応じよ！

日本製鉄元徴用工裁判を支援する会 中田光信

徴用工問題は、今年3月に韓国政府が韓国の財団（日帝強制動員被害者支援財団・以下財団）に被告企業（日本製鉄、三菱重工）の大法院判決の債務を「第三者弁済」させる案を示し、日本政府がこれを受け入れ「政治決着」が図られた。その時「財団は第三者弁済の求償権を行使しないのか」という記者の質問が出た。これに尹錫悦大統領は「財団が弁済した債務を、日本企業に求償することは想定していない」と答えた。これは債務の「肩代わり」＝第三者弁済は、あくまでも債務が「移転」するだけで消滅するわけではないことを示している。だから、その後財団は7月になって第三者弁済を拒否し、あくまでも差押えた株式等の現金化等を求めている原告らの「権利」を消滅させるため賠償金の供託を開始しようとした。しかし、債権者の同意

のない供託手続きは無効であるとして、韓国の地裁では次々に請求が棄却されている。

一方、第三者弁済を拒否している原告らを支援するために「市民募金」が提起され、8月には生存者原告の李春植（イ・チュンシク・さん—日本製鉄、梁錦徳（ヤン・クムドク）さん—三菱名古屋と故朴海玉（パク・ヘウク）さん—三菱名古屋、故鄭昌喜（ジョン・チャヒ）さん—三菱広島の遺族に、一人あたり1億ウォン（約1千万円）の支援金が手渡された。

国連は、国際社会に「人権尊重」を行き渡らせるためには、国家主導の取組みだけでは実現しないとの観点から、2011年に「ビジネスと人権に関する指導原則」を決議した。企業の経済活動の根本に人権尊重を据えることを求めたのである。この流れを受けて2017年には、日本経済団体連合会も「企業行動憲章」を改定して、第4章に「すべての人々の人権を尊重する経営を行う」ことを掲げた。

この人権には当然「強制労働」の根絶が含まれ

る。現在はサプライチェーン（仕入れから出荷等、材料調達・製造・販売・消費などの一連の流れを指す）における強制労働が注目されているが、ILO（国際労働機関）は日本の第二次世界大戦当時の朝鮮人・中国人強制労働は29号（強制労働）条約違反であると再三日本政府に勧告を行った。

日本製鉄も、この自ら行った強制労働の責任を免れることはできない。ところが会社は今年の株主総会で「1965年の日韓請求権協定によって解決済と認識しており、謝罪、韓国財団への資金拠出、和解、原告や代理人との面会等の特段の対応を行う予定はございません」と言い切った。国際社会は企業が人権をないがしろにして経営を行うことを許さない時代を迎えている。会社は半世紀以上も前に植民地支配責任を認めない日本政府と、

軍事独裁政権の妥協の産物として締結された「カビ」の生えた条約を盾に被害者と向き合うことを拒否したのである。

7月に現地調査のために初めて来日した、国連のビジネスと人権作業部会の調査団に、支援する会は「戦時中に行った朝鮮人強制動員・強制労働の被害者救済に関する責任をとらない日本企業について」というレポートを提出した。強制動員の被害者は大法院判決の原告だけではない。下級審に係属している裁判原告はもちろんのこと、裁判を起こすこともできなかった被害者や遺族もいる。

日本製鉄は「人権尊重」という国際基準に基づいて、この問題の全面的解決のための被害者との真摯な対話を始めなければならない。



▲支援金を伝達された李春植氏

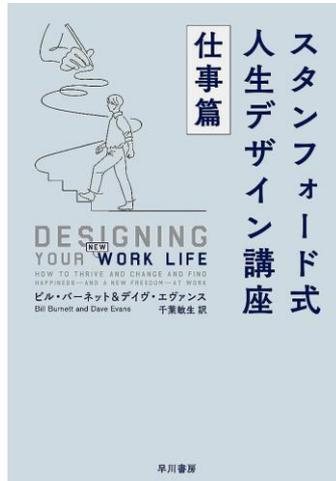


## 【書籍紹介】

## スタンフォード式人生デザイン講座仕事篇

著者:ビル・バーネット／デイヴ・エヴァンス  
早川書房／2450円

今月は、私がこの本を紹介します。タイトルは「スタンフォード式人生デザイン講座仕事篇」です。私はこの本からよく学びました。行動を変革できる本です。ビルとデイヴはスタンフォードで学び、スタンフォードで教えています。本書のデザイン思考は行き詰まりからの脱却ができます。思考の順序は①興味を持つ。②やってみる。③問題を別の視点でとらえなおす。④デザインはプロセスだと理解する。⑤助けを借りる。⑥あなたの物語を伝える。この中でも③問題を別の視点でとらえなおす(視点の転換)が最重要。行き詰まり思考とは本書では間違っただけの信念に捉われた状態を指します。視点の転換が効果的であるということです。



るための強力な視点の転換が大切だ」としています。

また第3章解決すべき問題はなに?では、「筆者デイヴはコンサルタントとして生計を立てていた。そんな彼の仕事上の技。質問その①あなたの問題は?質問その②なるほど。で、本当の問題は?たいていの状況では心理学者のいう“表面化した状況”と、それに加え“水面下の状況”が存在する。質問①は表面化した状況、質問②は水面下の状況にたどり着くためのものだ。これは対処可能な最小限の問題にたどり着くための方法でもある。視点の転換の技術を身につける最初のキーポイントは、現在起きている問題と本当の問題との違いをはっきりと分けることにある。そのコツは他の余計な荷物を

とり除くため、水面下で起きている本当の問題を読み解いていくこと。こうした技を使って人生をデザインしよう」と書かれています。

私は仕事を辞めたいとき、この本を読んでいました。そういうとき辞めて楽になるか、状況乗り越えて楽をするかしかありませんよね。本書をあなたのキャリアアップに役立ててください。

(法師)

著者は「本書を通じて情熱的でクリエイティブな働き手になってほしい。そのためのデザイン方法を伝える」としています。

本書では「もっとではなく、これで十分、これでいい。この考え方は成長や変化の余地を残しつつも“変換のための変化”を目指したりしない。

“もっと“を優先したりもしない。あなたの人生には何が必要なのか?あなたの人生に何を招き入りたいのか?それをあなた自身でコントロールす

## ◆◆行事紹介◆◆

民族はひとつ、祖国はひとつ、同胞はひとつ

## 第28回統一マダン生野

日時：9月17日(日) 正午～

場所：いくのパーク(旧大阪市立御幸森小学校・JR桃谷駅から徒歩10分)

内容：韓国6・15市民合唱団による合唱、ちゃんへんによるジャグリング

安聖民さんによるパンソリ、きむ・きがんさんのミニライブ他 多彩な演目

ビール、焼きそば、チヂミ、焼鳥、冷やしうどんなど出店多数

主催：第28回統一マダン生野実行委員会 TEL 06-6711-6377

## 編集後記

韓青夏期講習会に初めて参加した盟員の感想文、若々しく新鮮で、韓青の役割をあらためて感じました。9月も残暑が続きます。早く涼しくならないかな? (ソン)